

東日本大震災の教訓を今に生かそう②

地域住民との信頼関係が生まれた 復興ボランティア運動

述べ1万人の組合員が復興ボランティア運動に参加

東日本大震災発生から27日後の4月7日。盛岡地本としての復興ボランティア運動を開始しました。釜石では釜石市社会福祉協議会と連携を取り、被災住宅の瓦礫撤去や泥出し、高圧洗浄機作業、仮設住宅への引っ越しなど多岐に渡って行なってきました。またその他にも「炊き出し行動」や青年部が中心となって行った「復興イベント」などを行ってきました。「人と人が支え合い、協力していく」「人を思いやる大切さ」など、労働組合でしかないヒューマニズムあふれる運動を、述べ1万人の組合員の参加で創りだす事を通じ、東日本大震災からの復興を支え、地域住民との信頼関係を創りだしてきました。

復興ボランティア運動



炊き出し行動



復興イベント



2021年3月11日発行「地本新聞号外」に掲載された釜石支部・下平隆児さん(当時:釜石支部書記長)の記事の一部を紹介します

私は、JR東労組本部の専従指定を受け、釜石支部を拠点とし被災地の復興とその先の鉄道復旧に向けて、本部拠点となる釜石市のボランティア活動の準備を進めてきました。釜石市社会福祉協議会の担当の方と面会し、「微力ですが、4万人の組織、総力をもって復興のお手伝いをしたい」と伝え、ボランティア活動は始まりました。最初は瓦礫の撤去や泥出しがメインでしたが、統率の取れた真面目な活動が評価され、高圧洗浄機や電動式排水ポンプなどを任せられる様になりました。その他にも家屋の解体作業などボランティアの域を超えた作業も行い、2年間継続してきました。ボランティア活動は、JR東労組が有ったからこそ出来た運動であり、改めてJR東労組の大切さ・必要性を実感する事ができました。組合員の中には、奥さんや子供、友人を連れて参加した方もいました。多くの仲間が熱い思いを持ち釜石の地で活動して頂きました。本当に心から感謝いたします。